

発表会、なに弾く？ 連弾・生徒×大人編

文◎ピアノデュオ・ドウオール（藤井隆史・白水芳枝）

アレンスキー 《かつこう》

大作曲家たちも、もしかしたら「本人が小さなピアノリストたちと連弾を楽しんだかもしれない小品を残しています。作品のタイトルから実際の鳴き声がイメージしやすく、さらにデュオ作品としての完成度の高さの点から選曲しました。プリモのテクニックに無理がなく、発表会に向けてソロと並行して練習できるでしょうし、この作品でデュオの基礎をしっかり学べば、さらなるステップアップも期待できます。

ワンポイント・アドバイス

テーマである「かつこう」の小さな「つ」が休符にあたることや、指先でのピッチカート奏法、細かなアーティキュレーション、樹々のざわめきのレガート奏法など、アレンスキーは細やかに、鮮やかに森の風景を楽譜に書き留めています。楽譜に忠実に、二人の掛け合いを大切に弾いていきましょう。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

エルガー 《愛の挨拶》

小さなお子さんには「有名な曲を弾いてみたい」という時期がありますよね（笑）。セコンドが完全に伴奏形のもの、メロディーをプリモとセコンドとが交互に弾くものと、編曲の形もさまざまですが、どれも作品の素朴な美しさを二人で共有して楽しめる曲です。

ワンポイント・アドバイス

セコンドは、連弾でアンサンブルの基本をしつかり勉強しておけば、将来、他楽器との室内楽をする時にメロディーの支え方やバランスなど、すぐに対応できます。プリモは、ヴァイオリンのようにビブラートがあった、ホール中に響く奏法がこの曲でできるようになるかも！指先をあまり使わず、指の腹から響いてくるような音と、長いフレーズを。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

山田耕筈（壺井二歩編） 《からたちの花》

山田耕筈先生の作品の魅力は、日本語の母音と子音の発音が音楽上でも考えられており、何より文章とメロディーの抑揚が同じという驚異的な作曲技法にあると思います。音作りが必要とされる私達ピアノリストに最適な楽曲であり、壺井先生がしみじみと心に伝わる4手連弾作品に編曲してくださっています。

ワンポイント・アドバイス

実際に声を出して歌いながら弾くこと。この歌を知っている世代の方と歌って、コミュニケーションも生まれますし、とにかくボソボソと喋りがちな日本人の私たちが、「あいづえお」を止めて美しい響きで抑揚をつけて歌い、その通り指で発音すること、それが「指で音を作る」ことにつながるのです。母音の「あ」の明るい響きに気づかされる曲です。フィンガーレガートと指の腹を使った自然な発音の音を、大きなフレーズ感で、ホールの一番後ろまで届けましょう。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

リゲティ《5つの小品》より 《ソナチネ》

専門的に音楽に進んでいくのなら、現代の作曲家の作品は必ず演奏します。

小さい頃から変拍子や不協和音、リズム遊びに感覚で慣れてしまえば、苦手意識がなくなり、自然に曲に向かえますね。小さいお子さんほど、頭で考える前に感じたままに弾けることもあるでしょう！

ワンポイント・アドバイス

第1楽章は少し指先の技術が必要なのと、二人のかけ合いに慣れる必要があるかも知れません。第2楽章は音の響きの層に身を委ね、第3楽章ではシンコペーションのリズム遊びを身体に染み込ませる感覚で、何度でも練習しましょう。あとは、指先だけでのピッチカート奏法、鋭い音、重心が下に来る重みのある深い響きの音をそれぞれの楽章で意識し、音作りに励みましょう。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

発表会、なに弾く？

連弾・生徒×生徒編

文◎ピアノデュオ・ドウオール (藤井隆史・白水芳枝)

モーツァルト (バイエル編)

《フィガロの結婚》 K492 序曲

発表会のオープニングにいかがでしょう！

芸術分野でのアンサンブルの最高傑作とも言うべきオペラ作品は、ピアノソロでも楽しめますが、「一番小さな形のアンサンブル」である連弾ですと、二人の音の重なりが、幕が上がる前のワクワク感をクリアに再現してくれます。

ワンポイント・アドバイス

強弱の幅、クレッシェンド、デクレッシェンドを少し大きめに、バスは低音を意識して、劇場のドキドキ感を二人でイメージしながら特に始めましょう！

序曲にはオペラの見せ場やあらすじが入っていますが、常に二人の集中力が大切ですが、音数も多いので、何が必要で不要なのか、練習からきちんと区別して、幅の広い音楽を。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

ワンポイント・アドバイス

バッハ (クルターク編) 《神の時こそいと良き時》 BWV106

生活の中に教会があまりなじみのない私たち日本人ですが、教会で過ごすこと、そこで聴く音楽が基となっている作曲家たちの作品を演奏する私たちですから、やはり教会音楽を知ることが大切です。教会に行かなくても家庭でその音楽が楽しめるように連弾用に編曲してくれた作曲家に敬意を表したいですね。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

モシニコフスキー

《スペイン舞曲》 作品12

ハモニーの美しさ、それに尽きます！

両者共ソロにも活かせるロマン派の歌うテクニク、特にセコンドはデュオならではのバランスや「支え役である」自覚も芽生えます。

それぞれの曲のキャラクターがはつきりしている、この中からの曲選びもしやすく、イメージがつかみやすいのも特徴だと思います。

ワンポイント・アドバイス

1番…躍動感があり、分かりやすいハ長調、2番…憂いのあるト短調、3番…華やかさと和声の美しさがたまらないイ長調、など、曲を客観的に見つめ、演奏する曲の組み合わせを考えられるとよいですね。

セコンドは左手バスで音楽を支えながらも、リズムの特徴は右手でよく語られていますし、プリモはそれに乗って自由に、ソリストの気持ちで時に高らかに、時に虚ろに指で歌いましょう。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

ワンポイント・アドバイス

連弾で一番大切なメロディとバスを指で豊かに歌うのと同時に、内声である中音域が遠くまで伸びていくような指の腹を使った奏法、また繊細な揺らぎ、うごめきをアフタータッチも使って表現できると、連弾ならではの立体的な音の層が構築され、オーケストラの多角的な響きも聴こえてくるでしょう。

夕暮れ時、発表会のエンディングの方にぜひ。

難易度

技術★★★★☆
表現★★★★☆

ドヴォルザーク 交響曲第9番《新世界より》 第2楽章

オーケストラ作品は自編、他編問わず、多くの作品がピアノデュオに編曲されていますが、それは現代のように誰もがコンサート会場でオーケストラを聴ける環境、時代ではなかったことが背景にあります。

この曲も、とにかくメロディーとハモニーの美しさ(個人的好みに走りすぎですか……(笑))が特徴。転調がたまりません！

ドヴォルザークがニューヨークの景色から故郷に想いを馳せる切なさ……留学などで自分の国を離れた人なら一度は感じる独特の感情にタイムスリップさせられるような、胸を熱くするメロディーです。